



「紅葉と六地藏」

四季の部 金賞 福生市 竹島 和正



諸 行 無 常

別格本山高幡山金剛寺 貫主 杉 田 純 一

仏教には「諸行無常」という言葉があります。これは、因と縁によって生じたものは常に移り変わり、決してとどまることがないという真理です。生きとし生けるものも、形あるものも、例外なく変化し、やがて滅していきます。この言葉の重みを、私は母の存在を通して深く感じました。

母は数えて百歳の生涯を閉じました。最照寺の先代住職である父が、私が三十歳のときに突然遷化した際、ただ呆然としていた私のそばで、気丈に立ち回り、私を支えてくれたのが母でした。当時、高幡不動に奉職していた私に代わり、最照寺を護ってくれていたことには、今も感謝の念しかありません。九十五歳を過ぎて施設に入所した後も、生きていてくれるだけで、私は安心し、寺を護る力を得ていたのではないかと思います。

そんな母が逝ったとき、言葉にできないほどの喪失感に包まれました。「偉くなるな、偉くなるな」といつも諭してくれた母の声が、今も私の心に深く響いています。その言葉には、「驕らず、常に謙虚であれ」という教えが込められていたのでしょうか。

『大般涅槃經』には次のように説かれています。お釈迦さまは入滅の直前、弟子たちにこう告げられました。

「もろもろの事象は過ぎ去るものである（諸行無常）。怠ることなく修行を完成なさい」と。

（岩波文庫『ブツダ最後の旅』より）

すべてのものが移ろいゆくからこそ、私たちは今この時を大切にし、怠ることなく精進しなければならないと諭されています。

大切な人との別れは、無常の厳しさを容赦なく突きつけます。しかし、永遠ではないからこそ、その別れは心に深く刻まれ、残された私たちがどう生きるべきかを問いかけてくるのです。移ろいゆく命の中で、過ぎ去る時をただ嘆くのではなく、諸行無常の教えを胸に日々を精一杯生きることこそが、無常を生き抜く智慧なのだと私は思います。

お不動さまの心―(一二六) 現代の世相から (89) 廣 澤 隆 之

いつの世も、新しい流行は若者が生み出す傾向があります。流行というのはある意味では社会の流れを象徴する現象でもあり、新たな文化の創造でもあります。文化というのは言葉と密接な関係にあります。

例えば食事の作法も言葉によって意味づけられ、親子に孫へと伝えられます。そしてその文化の中で思いが言葉によって表されます。いわば言葉と文化は一体のものといえるでしょう。そして現代の社会生活の激しい変化のなかで言葉も変わり続けています。特に若者たちが新しい言葉を生み出し、そして言葉に即した若者文化が醸しだされるでしょう。若者が生み出す言葉について行けない私には将来の文化のあり方、ひいては社会のあり方を予測できません。しかしなんとなく不安もつきまといまいます。

若者が使う新しい言葉はSNSでのコミュニケーションから生まれることが多いようです。例えば「明けておめでとう」の略語の「あけおめ」、感情の高ぶりを表現

する英語のエモーションを形容詞化した「エモい」、笑いを意味するネットでの俗語としての「草」などの造語力は私のような年寄りには想像できない思考の空間があるように思えます。笑いが「草」に変化する過程を詳細に検討するとコンピュータ上の文字記号と表現やその認知機能について人間に秘められた思考が見えてくる感じがします。

さてこのようなインターネットの発展とともに生まれる言葉とは別に、古い言葉が若者に受け容れられつつ意味が変化する過程に文化のあり方を見ることができます。そのような一例として私が以前から気になっていた言葉遣いに「やばい」があります。

「やばい」は江戸時代に生み出された言葉です。語源についてはいくつかの説があるようですが、いずれにしろ不法行為によって逮捕されたり拘束されたりするような危険な状況を指す言葉だったようです。その言葉は明治になって裏社会を生きる人びとも使うようになり、さらには一般の人までも危険な状況を「や

ばい」と言うようになりまし。そして次第にこの表現は子供たちにも浸透しました。私たちは大人にみつかったら「やばい」ことを隠れて行いながら成長してきました。ところがこの言葉には下品で危険なニュアンスがあるためか女の子たちが遣うことはありませんでした。しかし四十年前くらい前からでしょうか、女子高生が使うのが目立ち始めました。最初は悪ぶった子供たちから、そして次第に普通の子供たちも「やばい」と言うようになりました。そして

ていることが読みとれます。このジェンダーレスを念頭に、中学生の孫娘に色々と質問してみました。そこで分かったのですが、女の子が自分のことを表現した「わたし」「あたし」「あたい」などという言葉はほぼ遣われていません。こういった一人称を使用せず、主語抜きかあるいは自分の名前を入れて話すそうです。たとえば、「きのうデイズニーにいったよ」と言ったり、あるいは自分の名前を一人称代わりに遣い、たとえばルナちゃんだったたら



不動明王坐像 坂本雅城画

その間に意味が大きく変化し、「やばい」が「素晴らしい」や「最高」などという意味でも使われるようになりました。「このケーキ、超うまくねーやばいよ」といった表現が女の子たちの間であたり前になりました。かつては悪ぶった子供たちが「やばい」と遣っていたのに今では男女共用の言葉になりました。ここに現代社会が男女の違いを問わな

「ルナさー、きのうデイズニー行っただ」と表現するそうです。会話のほとんどが主語抜きだそうです。

それでどうして分かるのか尋ねてみると、「その場の雰囲気」や「何となく」だそうです。この返答にはたいへん驚きました。実は主語抜きの文章は「源氏物語」に代表される日本語の特徴の一つです。そして私たちも道で誰かに会ったら「やあしばらく、どち

らへ」「いや、ちよつとそこまで」「ああそうですか」といったほとんど意味のない会話をします。しかも、そこには主語がありません。このようなことは欧米語ではあり得ません。

私たちは雰囲気、人間関係などを直観的に把握し、二人であるいは数人での会話を無意識のうちにやっています。文化のもとになる日本語は人間関係を把握する曖昧な雰囲気の中で主語抜きでも成立することが多いのです。それは論理的な表現ではなく、日常の生活に見られます。この雰囲気を直観的に把握する日本人の特性が現代の中高生の主語抜きの会話にも見られることに感動しました。

欧米語のように常に自分と相手を区分して、自分を確立させて表現するのとは異なり、まさに「人間」という「人と人との間」の場を読みながら自分と相手を確認する日本の文化の特性は激しく変化しているようです。先祖伝来の文化の深みを感じます。

廣澤隆之先生のプロフィール

● 大正大学名誉教授

● 浄福寺住職

新客殿・寺務局再建工事資金ご寄進のお願い

当山では客殿の老朽化に伴い、ご参拝の皆様のご安全と利便性を高めるため、長年の懸案でございました新客殿・寺務局再建工事を発願、令和七年春から着工致しました。皆様には事業成満のため絶大なる御信援・御協賛を賜りますようお願い申し上げます。合掌

工 事 概 要

工事名称…新客殿・寺務局再建工事
工事期間…令和七年四月一日～

令和九年三月三十一日

設計監理…株式会社文化財工学研究所

施 工…株式会社藤木工務店東京支店

建物概要…地上三階・鉄骨造・エレベーター完備
建物規模…延床面積 八六九・二四坪

建築面積 三三三・三一坪

主要構成…一階 寺務室・製札作業室・厨房

二階 大広間・多目的洋間・会議室

三階 貴賓室・教学研究所・会議室

事業費…三〇億円

落慶法要…令和九年秋

工事資金勸募…

令和九年三月三十一日まで

一口 一〇、〇〇〇円（何口でも可）
お振込みの方は さわやか信用金庫高幡不動産支店（022）

普通預金 No.0383288

宗教法人金剛寺 代表役員 杉田純一

すまいるんいち

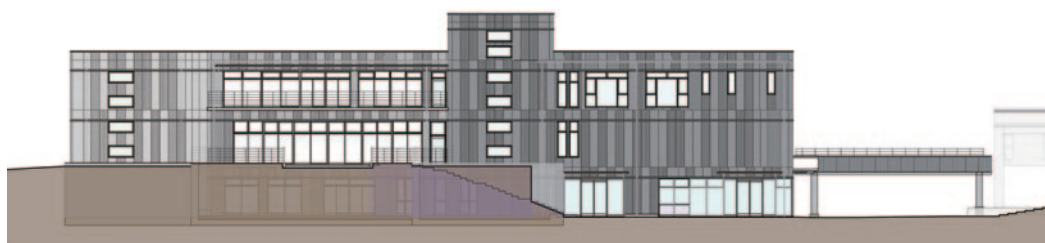
※ご寄進に合わせ申込用紙を記入いただきご提出をお願い致します。ご希望の方には申込用紙をお送り致します。



東側立面図



東側玄関唐破風



南側立面図

(自令和七年四月一日至六月二十日)

[illegible]

[illegible]



大施餓鬼法要 8/15

高幡不動尊 フォトニュース



夏休み寺子屋ご参加の皆様と 8/5



牧有恵先生仏画教室 6/14



あじさいまつり写真コンクール審査 7/28



大施餓鬼会記念法話 吉野孝壽先生 8/15

多摩八十八ヶ所巡拝のご案内

当山では昭和四十八年より毎年、四月から十月にかけて多摩八十八ヶ所巡拝を実施致しております。巡拝は初めての方でも先達のお坊さんの案内をいただき乍ら月一回の楽しい巡拝が出来ます。ご知友お誘い合せてご参加下さいませようご案内申し上げます。

記

一、巡 拝 毎月第一週の火・木・日曜日

(五月は第二週)

一、会 費 六〇、〇〇〇円(七回分) 分割納入も可

(納経料・バス代・保険料等を含む)

一、昼 食 各自持参

※詳しくは高幡山事務局内「龍華会」まで

電話 〇四二五九一〇〇三二番

「多摩八十八ヶ所巡拝のしおり」刊行のお知らせ

平成四年に出版された「多摩八十八ヶ所巡拝のしおり」を再編し、新冊子として刊行致しました。お大師様の信仰を深め八十八ヶ所巡拝をされてはいかがでしょうか。

一部 一、〇〇〇円

電話 〇四二五九一〇〇三二

龍華会まで



く 献花のおすすめく

お花講 講員の募集

当山ではお花講講員の皆さま方の会費により、山内全ての伽藍のお花を飾らせていただいております。大勢様ご入講下さいますようお願い申し上げます。

記

一、名 称 高幡山お花講

一、会 費 一ヶ月 五〇〇円

※入講は随時承っております。

ご入講の皆様には輪袈裟を授与します。

御詠歌始めませんか

『密厳流御詠歌』講員募集のご案内

御詠歌とは和歌調の詞に節を付け鈴・鉦を使ってお唱えする仏教歌で、彼岸会・萬燈会などの法要でお唱えします。高幡山では次のとおり御詠歌の新講員を募集しますので、大勢様ご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

一、名 称 遍照講高幡山支部

一、参加資格 どなたでもご参加いただけます

一、指 導 密厳流遍照講師範

一、会 費 一ヶ月 三、〇〇〇円

(但し、鈴・鉦などの道具は別費)

一、稽古日時 月二(三)回 午前十時~十二時

問い合わせ先 高幡不動尊内「遍照講高幡山支部」

電話 〇四二五九一〇〇三二



われらさど
吾等覺りの
行者として
朝な夕なの
かたときも
仏の教え
身につけて
たつきの日々に
いそしまん

「同行和讃」

秋の行事案内

(毎月十五日にはお焚き上げが行われます)

◇ 九月

- 14日(日) フリーマーケット
- 21日(日) ござれ市(がらくた市)
- 21日(日) 月例写経会(午後一時半) 法話 山内僧侶
- 23日(祝) 彼岸会法要(午前七時) 大日堂
- 24日(水) 千体地藏尊月例法要(午後二時) 法話 山内僧侶
- 28日(日) 秋季大祭大般若会 お花講総登壇日

◇ 十月

- 12日(日) フリーマーケット
- 19日(日) ござれ市(がらくた市)
- 21日(火) 多摩八十八ヶ所巡拝結願法要
記念法話 講師 多摩八十八ヶ所第八十四番札所
普門寺御住職 川澄 祐英 先生
演題 「お大師さまと真言宗智山派
—平安から江戸へ—」

- 21日(火) 月例写経会(午後一時半) 法話 山内僧侶
- 24日(金) 千体地藏尊月例法要(午後二時) 法話 山内僧侶
- 28日(火) 第五十四回 高幡不動尊菊まつり (下段参照)
- 28日(火) 月例祭(ご縁日)

◇ 十一月

- 十一月 七五三祈願 (下段参照)
- 8日(土) 五重塔ブルーライトアップ
- 9日(日) フリーマーケット
- 15日(土) 16日(日) 高幡写仏会 講師 牧 宥恵 先生
- 16日(日) ござれ市(がらくた市)
- 18日(火) 30日(日) 高幡不動尊もみじまつり
- 21日(金) 月例写経会(午後一時半) 法話 山内僧侶
- 22日(土) 23日(祝) 萬燈会・たかはたもみじ灯路
- 24日(祝) 千体地藏尊月例法要(午後二時) 法話 山内僧侶
- 28日(金) 月例祭(ご縁日)

第五十四回高幡不動尊菊まつり

恒例の高幡不動尊菊まつりが左記の通り開催されます。皆様お誘い合せてご鑑賞下さい。

記

- 一、月 日 十月二十八日(火)～十一月十七日(月)
- 一、会 場 高幡不動尊境内
- 一、参 加 多摩菊花連盟参加五市の菊作り愛好家
厚物・管物・一文字・懸崖・福助・だるま・盆栽・切花等
- 一、出 品 参加五市の特設花壇及び特志者の大作り
(千輪咲・三重塔)等も出品。
- 一、審 査 十一月五日・十三日の両日に行われ、
内閣総理大臣賞をはじめ各大臣賞・東京都知事賞等が贈られます。



昨年の内閣総理大臣賞

※期間中は毎日菊作りの相談及び菊苗の販売が行われます。展示された菊花のうち切花は十一月七日・十四日の両日朝から 福助は十一月十日午後一時から即売されます。
又、期間中のご縁日・日曜・祝日等は七五三詣とも重なり大変混み合いますので、なるべく電車・モノレール・バスをご利用下さい。

七五三・新生児祈願のご案内

お子様の健康をお祈りする七五三祈願は十月～十一月中毎日、新生児祈願は一年中ご修行しております。

◎ご祈願料 金五、〇〇〇円以上 (お札・供物料含む)

※堂内ではお子様を中央前に、ご家族の方はその後ろにお座り下さい。



高幡不動尊もみじまつり

十一月十八日(火)～十一月三十日(日)

境内から裏山にかけては、樹齢二百年以上の古木三百株・約三十年の稚木一〇〇〇株が集中しています。特に五重塔・大師堂・鐘楼堂付近のもみじは見事でライトアップも予定されております。

もみじまつり期間中の主な行事・催しは左の通りです。

- 十一月十五日・十六日 高幡写仏会
- 十一月十六日 ござれ市
- 十一月二十一日 月例写経会
- 十一月二十二日・二十三日 萬燈会・たかはたもみじ灯路
- 十一月二十四日 千体地藏尊月例法要
- 十一月二十八日 ご縁日

萬燈会・たかはたもみじ灯路

当山では左記の通り二日間に亘って萬燈会を奉修し、皆様の七難即滅・七福即生並びにご先祖様の追福菩提をお祈りさせていただきますので、皆さまお誘い合せてご参加下さい。尚、両日とも午後六時から門前町一帯で、約二四〇〇個の置灯明が点灯され、「たかはたもみじ灯路」の幽玄な世界が現出されますのでお楽しみ下さい。

記

- 一、月 日 十一月二十二日(土)・二十三日(祝)
- 一、会 場 高幡不動尊大日堂
- 一、行 事 法 話・詠歌奉詠
萬燈会(大日堂) 午後四時
塔婆供養(五重塔前) 午後五時三十分
- 一、御 燈 料 金一、〇〇〇円也(二人につき)
- 一、經木塔婆 金一、〇〇〇円也(一霊につき)
- 一、浮燈明 金 八〇〇円也(五重塔の池に浮べる燈明です)

多摩八十八ヶ所巡拝結願記念法話

・日 時 十月二十一日(火) 午前十時三十分

・会 場 不動堂(聴講無料)

・講 師 多摩八十八ヶ所第八十四番札所

普門寺御住職

川 澄 祐 英 先生



・演 題

「お大師さまと

真言宗智山派

―平安から江戸へ―

高幡写仏会のお知らせ

自分の手で仏様のお姿を写経のように写して、その後、御本尊不動明王に奉納する写仏会です。

当山では年二回(あじさいまつり・もみじまつりの会期中)写仏布教の第一人者、画僧牧宥恵師を招いて開催しています。写仏前の御法話も人気があります。是非この機会に御参加いただき、お不動様との法縁と写仏を自身の浄行とされ御本尊不動明王のご加護を授け下さい。

記

- 一、日 時 十一月十五日(土)・十六日(日)
- 一、会 場 午後一時～午後四時(受付 正午より)
- 一、内 容 五重塔千体地藏堂
午後一時 法話
午後二時 写仏
- 一、会 費 午後四時 写仏奉納大護摩修行
式千円(材料費含む)
- ◇お申込・高幡不動尊寺務局まで
電話 〇四二五九一〇〇三二

大提灯

ご奉納のお願い

当山では萬燈会・正月・大祭・節分等の大行事の折、各所に大提灯をお飾り致しますのでご協賛の程お願い申し上げます。

尚、募集要項は左の通り

- 一、品 名 萬燈会及び大祭 用大提灯(ご奉納者芳名入り) 五十基
- 一、募集数 五十基
- 一、志納金 金五〇、〇〇〇円
- 一、申 込 当山寺務局又は 宝輪閣受付

(ご連絡下されば申込書をお届け致します)



ご奉納いただいた大提灯

第四十一回あじさいまつり

今年是新客殿工事に伴い少
年柔剣道、日本拳法、空手の
各奉納大会をお休みし、俳句
短歌各大会、写真コンクール、
薄茶接待、クイズ大会などを
開催しました。

あじさいまつり全国俳句大会

今大会は一二四八句の応募
があり、七名の先生方に各七
十句選を依頼し合計点で上位
三十名の入選が決まりました。
選者は次の先生方です。

(敬称肩書略五十音順)

- 大竹多可志・才野 洋
- 笹木 弘・鳥居真里子
- 暮目 良雨・福神 規子
- 星野 高士
- の諸先生

第一位

まんぢゅうに

誠の文字や

紅葉狩

小平市 関 美穂子

第二位

古刹てふ

浄土の風に

居て涼し

瑞穂町 斉藤 洋美

第三位

地下足袋の

小鉤の光る

松手入れ

- ④関根 正義 ⑤古郡 孝之
- ⑥大久保 昇 ⑦橋本 絢
- ⑧鳥飼 成雄 ⑨浅井 大志
- ⑩松本由美子 ⑪関戸 信治
- ⑫西村みち子 ⑬野村由美子
- ⑭久保田敏子 ⑮中島悠美子
- ⑯譲尾三枝子 ⑰田倉 恵子
- ⑱佐々木孝子 ⑲橋田みち子
- ⑳佐々木リサ ㉑柴崎 桃英
- ㉒草刈 幸風 ㉓能勢 伸子
- ㉔山地 保子 ㉕梅園 久夫
- ㉖斉藤 文子 ㉗坂野 たみ
- ㉘並河 敬子 ㉙佐藤 弘子
- ㉚橘 光江

あじさいまつり短歌大会

今大会は一九二首の応募が
あり、三名の先生方に各五十
首選を依頼し、合計点で上位
三十名の入選が決まりました。
選者は次の先生方です。

(敬称肩書略五十音順)

- 狩野 一男・長澤 ちづ
- 森本 平
- の諸先生

第一位

見上げたる

山門までの 石段を

埋めつくして

あじさいの藍

小平市 夏目 雅代

第二位

あじさいの

根元は少し やわらかく

踏むをためらい

ただずみている

第三位

感情の

起伏なだめて くれるよう

白紫陽花が

たっぷり咲いた

東大和市 石川るみ子

④藤井 徳子 ⑤高橋 勇

⑥長谷川 瞳 ⑦手塚 兼夫

⑧大久保 昇 ⑨芝田 大地



「スマイル」あじさいの部 銅賞
相模原市 田所 正



「思い出の一枚」あじさいの部 銅賞
昭島市 松島 国五郎



「六月の彩り」あじさいの部 銅賞
小金井市 鈴木 忠良

- ⑩栗本 岬 ⑪加藤 久子
- ⑫田中 典子 ⑬西川 直子
- ⑭千明 武紀 ⑮中道 操
- ⑯黄金井春男 ⑰土屋美代子
- ⑱奥 浩昭 ⑲伊藤恭一郎
- ⑳花町 淳一 ㉑佐藤 昌喜
- ㉒藤沼加代子 ㉓田村智恵子
- ㉔松永 昇三 ㉕中野 寛人
- ㉖横山つみ ㉗田山神無月
- ㉘北村 芳枝 ㉙富山富美子
- ㉚津布良直也

山内八十八ヶ所クイズ

今年の山内八十八ヶ所めぐ
りクイズは、四二九名に御解
答いただき、全問正解は三三
一名でした。

クイズの正解

①実在するアジサイは？

「ほろ酔い」

⑩大阪万博のキャラクターは？

「ミャクミャク」

②不動堂の松は？

「旗かけの松」

③アジサイの別名は？

「四葩」

④京王高幡不動駅は開業何年？

「二〇〇年」

⑤水琴窟に埋まっているのは？

「甕(かめ)」

⑥空海の幼名「真魚」の読みは？

「まお」

⑦土方歳三が亡くなったとき

れる場所は？

「北海道函館」

⑧西洋アジサイ「ハイドランジ

ア」の意味は？ 「水の器」

⑧聖天堂前のお地藏さまは？

「こけし地蔵」

あじさいまつり写真コンクール

今回は総数一二〇二点（あじさいの部七三七点、四季の部四六五点）の作品を応募いただき、七月二十八日に審査会が行われ、合計一〇八点が入賞しました。入賞作品は九月四日～十六日まで京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンターA B館五階連絡ブリッジギャラリーに展示します。

上位入賞者

（あじさいの部）

金賞 日野市 小山 乾 （本号 本頁掲載）

銀賞 三鷹市 北野 修 （八年六月号掲載）

銅賞 日野市 設楽 誠一 （本号 本頁掲載）

八王子市 渡辺 邦昭 （本号 本頁掲載）

銅賞 小金井市 鈴木 忠良 （本号 十頁掲載）

相模原市 田所 正 （本号 十頁掲載）

日野市 羽賀 道行 （八年六月号掲載）

昭島市 松島 国五郎 （本号 十頁掲載）

八王子市 山本 鈍海 （八年六月号掲載）

（四季の部）

金賞 福生市 竹島 和正 （本号 一頁掲載）

銀賞 八王子市 渡辺 武彦 （本号 本頁掲載）

文京区 小池 基夫 （八年三月号掲載）

国立市 島崎 恭子 （本号 本頁掲載）

銅賞 東久留米市 斎藤 力 （七年十二月号掲載）

昭島市 野武 高行 （七年十二月号掲載）

八王子市 渡辺 一博 （八年六月号掲載）

八王子市 林 征示 （本号 本頁掲載）

八王子市 三島 邦夫 （七年十二月号掲載）



「あじさい、静謐に咲く」
あじさいの部 銀賞 日野市 設楽 誠一



「秋の山内八十八ヶ所巡拝」
四季の部 銀賞 八王子市 渡辺 武彦



「萬燈会の祈り」
四季の部 銅賞 八王子市 林 征示



「茶室に咲く」
あじさいの部 金賞 日野市 小山 乾



「戦後80年の爪痕」
四季の部 銀賞
国立市 島崎 恭子



「撮れた」
あじさいの部 銀賞
八王子市 渡辺 邦昭

山内消息

写仏会

六月十四・十五日の二日間、五重塔千体地藏堂を会場に写仏布教の第一人者である牧宥恵先生を遠く和歌山県根来よりお招きし、写仏会を開催しました。四十五名の方が参加され、ユーモアを交えながらのご法話を楽しみ、写仏を通して仏様と深くご縁を結ばれました。
(伊大知記)

あじさい毬切り

あじさいまつり終了後の七月八日に当山職員と有志の皆様のお力を借りて紫陽花の毬切りを行いました。花が終わった枝を切り戻すことで栄養を無駄に消費させず、次の花芽の形成を促すためです。また不要な枝を切ることで風通しを良くし、病害虫の発生を抑える効果もあります。炎天の中、お手伝いいただきました皆様方、有難うございました。
(杉田周記)

布施狹下御来山

七月十八日、布施浄慧狹下が退任挨拶の為に御来山され

ました。狹下は六年間真言宗智山派管長、総本山智積院化主を務められ、六月二十三日総本山にて退山式が執行されました。
(上田記)

寺子屋

八月五日、二十七名のご参加をいただき寺子屋を開催しました。今回は腕輪念珠作り、おみくじ作り、高幡不動尊オリジナル神経衰弱、境内参拝等、外は四十度強の記録的猛暑日でしたが、暑さ対策のもと無事終了致しました。

(佐竹智記)

ニューフェイス紹介

本年春、新たに大正大学を卒業した三人の若い僧侶が当山職員となりましたので、紹介いたします。

まず一人目は、津守智稔君です。東京都多摩市出身で、趣味はジムに通って筋トレで汗をかくことと、一人旅が大好きです。高校時代迄、野球に打ち込んでいた為(ピッチャーです)肩や背中周りの筋力と、咄嗟の反応、行動の速さには自信があるそうです。

つづいて二人目は、中見昌

弘君です。栃木県宇都宮市出身で、趣味はドライブです。お不動様に守られておりますが、安全運転につとめております。大学時代はカバディ部に所属しておりましたので息継ぎなしで唱えられるお経の長さでは誰にも負けないそうです。最後に三人目は、加藤慈温君です。栃木県大田原市出身で、趣味は音楽を聴くこと。特にアジアン・カンフー・ジェネレーションというグループ

が大好きでライブもよく観に行きます。また、散歩が好きで、時にはサイフを持たず、スマートフォンにも頼らずに知らない町を歩くこともあるそうです。

三人とも大学生の頃より当山にてアルバイトの経験もあり、即戦力として頼もしい存在です。積極的に法務に取り組みしておりますので、今後の活躍にご期待下さい。

(百戸記)

大覚寺門跡推薦教室
いけばな嵯峨御流

【第7回】



テキスト「ときめきの花」より

■生花の原理



テキスト「ときめきの花」より

当流の生花は、文政十二年(一八二九年)、嵯峨御所の華職に任じられた二代目末生斎廣甫によつて完成しました。儀式的な暮らしの花として、また客を響応する花として床

の間に飾られてきました。極めて簡素な花姿ですが、その端正な美しさと格調の高さが魅力です。その花姿は、天円地方の理に従つて、天を象徴する円の中に、地を示す正方形を仮想し、その正方形の対角線によつて作られる直角二等辺三角形の中に天(体)、地(留)、人(用)の三才の格をはめたものを基本とします。

この理論を確立した初代末生斎一甫は、草木の出生、本性に随うことを「実」、枝を揉め勾弦三才の姿を調えて挿花の法形を守ることを「虚」として、

御塔婆料
改訂のお知らせ

ご先祖様をはじめ亡き人のご供養の為に建立いただいたいております御塔婆料を令和七年十月一日より改訂致しますので、お知らせ申し上げます。

御塔婆料
一体 五、〇〇〇円

「虚実等分」に花をいける事が「花道の本意」としています。嵯峨御流伝書第一巻「諸言」にはこう記されています。

「当御流にては剪りたる草木に形を備え、是を花形とす。されば挿花の姿は天地万物の形と同様也。故に能く草木の性をわきまえ其妙処に至りて後は野面の儘を移すとも、陰陽和合虚実等分の理自然に備り心の風流花、葉、枝に頭われ姿の変化自在なるべし。」

習得するには、修練の積み重ねを必要とする花です。

(嵯峨御流いけばなフリーレッスン引用)

嵯峨御流華道芸術学院教授
納富貴甫

諸行事に参加して

青葉まつり

記念法話(6/15)

「梵字悉曇のお話」

川崎大師法務部内務課長

橋本 秀範 先生

町田市 溝口 翔太

梵字に関して由来から何に使われているかまで、詳しくお話しただけで楽しめました。有難うございます。お大師様の誕生日をお祝いし、内陣にあがらせてもらい、間近で、御本尊大日如来と真言宗を繋いでくれた方々を拝ませていただくという貴重な機会をいただけて大変嬉しく思います。

清瀬市 沖山 順子

梅雨に入りあじさいも咲く中、大日堂にて日頃見てはいませんが、深く知ることもなく居りました梵字。本日は日本へ入ってくるまでの歴史をわかりやすくお話していただきました。これから卒塔婆や供養塔、墓石などを目にした際、本日のお話を思い出してみたいと思います。



橋本 秀範 先生

立川市 高橋 奈穂

今年も青葉まつりに来ました。星まつりにも、いつも参加させていただいております。昨年の星まつりの時に建て替えのお話をされていたので、新しくなった客殿を楽しみにしております。来年も来られますように!!

狛江市 増田 真

今年も弘法大師様と興教大師様のご誕生をお祝いする青葉まつりに参加する事が出来、とても感謝しています。橋本先生の有難いお話も聴け、梵字の奥深さに触れ、充実した一日を過ごす事が出来ました。これからも与えられた日々を大切に過ごしていきたいと思

います。来年の青葉まつりにも両大師様に頑張っている姿を見ていただける様に日々精進していきたいと思っています。

山内八十八ヶ所
クイズめぐり

調布市 城戸 賀代

先週アジサイを見に来た時に八十八ヶ所クイズめぐりの案内があったので、一週間後にもう一度来てみました。お

大師様の順を追って気軽に歩け、起伏に富み、色々な景觀が楽しめ、充実しました。アジサイも先週より色鮮やかになり、より綺麗でした。八十八ヶ所めぐり沿いにも色の変化を楽しめる山アジサイが沢山あるのには驚きました。駅から近いのに、こんなに山深いところに来れるなんて、すばらしい。キツネノカミソリや曼珠沙華もあるようなのでまた来てみたいです。

蕨市 池之上貴子

都会に居る事を忘れてしまう時間でした。少し疲れましたが、巡った後はとても清々しい気持ちになりました。あじさいが咲き始めの時期だっ

たのですが、満開の時にまた来たいと思いました。この様なクイズがある事で家族で楽しみなが巡る事が出来、とても良い一日となりました。

日野市 鈴木 理恵

暑い日が続いていましたが、アジサイは暑さに負けず咲いていて感動しました。八十八ヶ所を巡り、鳥や虫の声を聞き、とてもリラックスできました。

国立市 青木 一希

毎年このあじさいの時期を楽しみにしており、毎度、妻娘と問題を解きながら巡っています。そろそろ四才になる娘は、今までは途中で歩くのを嫌がっていましたが、今回はなんと全部自分の足で巡ることができました。ここは、そういった娘の成長を感じられる場所でもあります。

寺子屋

大村 春奈

色々な建物に入り、色々な体験をさせてもらいました。その中で特に楽しかったことは、念珠を作ったことと、ひびく龍と五重塔に登ったこと

です。念珠を作るとき、くずれてしまったりして、むずかしかったけれど、完成したときには、きれいでうれしかったです。龍の建物では願い事を思いながら手をたたいたのですが、かなってほしいです。最後は五重塔に登っているときは大変だったけど、頂上は風もあり、色々な景色を見ることができました。

富川あさひ

うでわづくりが、すごくむずかしかったけど、おぼろさんがおしえてくれたり、ママがてつだってくれたから、じょうずにできて、すごくたのしかったです、うれしかったです。

小山内色葉

全部楽しかったけど、一番楽しかったことは、手をたたいて「ボボボウォーン」という音がするということだと思います。

吉川 彩乃

しんけいすいじゃくで、勝ててよかった。前回と少しだけルールが変わっていて面白かった。五重塔に登って東京タワーなどが見えなくてざんねんだったけど、また見に来たいです。

奥 殿 だ よ り

第十三回

不思議な画家 田公実

(その二)

(承前)

前回、当山所蔵の田公実の作品を二十五点としましたが、その後の整理調査の過程で、さらに二点が田公実のものとなり、合計二十七点になりました。先づはじめにその御報告をしておきましょう。

一点は、十二月の冬至の日に執り行われる星祭りの御修行で使用される星曼荼羅です。

もう一点は、地藏菩薩像です。これは当山の什物である室町時代の地藏菩薩像を田公実が模写したものです。

この二点は作者不詳とされておりましたが、明治二十年等の什器帳に記載されている記録から、田公実の作であることが確認されました。

さて、前号で紹介しました雁図の上端裏面に書かれていた「木田由美」について見ていきましょう。木田由美は当山第二十九世賢雅和上の長兄の娘で、姪に当たります。賢雅和上は文化六年(一八〇九年)に延岡藩士木田周敬の

次男として生まれ、十一歳の年に愛宕鏡照寺に入り修行を積み、天保十年(一八三九年)「明治四年(一八七一年)当山住職を務めた人物で、木田姓であります。「木田由美」のほか、「木田由美子」、「木田弓」、「木田弓子」等とも書かれることがあります。

木田由美の墓は当山にあり、その墓石に刻まれたところに拠れば、明治四十年(一九〇七年)十月二十八日、北豊島郡日暮里の草庵で六十八歳で亡くなりました。

さて、田公実の作品は、前述の什器帳に、星曼荼羅及び地藏菩薩像以外に、芝山仁王尊像、六道出現地藏菩薩像、十王図(二幅)、弘法大師像、本覚大師画像が記載されており、皆、仏画及び高僧像で、全て賢雅和上の寄附によるものです。

賢雅和上は、阿弥陀如来木像、薬師如来木像、舍利塔、舍利小塔入宮殿、両界曼荼羅、大自在天画像、軍荼利尊画像、十二天画像、弘法大師画像・興教大師画像・理源大師画像(三幅対)、十三佛画像・光明曼荼羅・弘法大師画像(三幅対)、八大高祖画像などの他、書や聖教類、仏具、法衣等々、多くのものを寄附しております。現在、明治二十

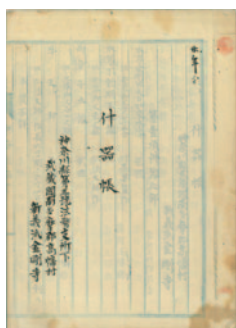
年及び二十一年の什器帳以外の什器帳は見つかっており、断定は出来ませんが、その他、佛教と関係の無い画題の田公実筆の滝図、松図、雁図、梅鶯図、花鳥図、柳鷹図、松・尾長図等の山水花鳥図や龍図は、賢雅和上ではない人物による寄附の可能性も十分考慮されなければなりません。

雁図の上端裏面には「木田由美」の記載がありましたが、これは所蔵者を表している物と考えられ、寄附者を示唆するものとしてよいでしょう。これらの八点の繪は、木田由美の寄附としておきたいと思えます。

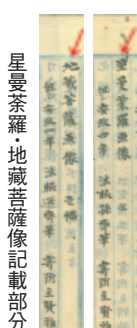
木田由美は、恐らく明治時代前期に、高幡山道場において、賢雅和上より授戒しております。そして、地藏菩薩木像、不動明王像等の尊像や仏具、什器類、また多額の金子を当山に寄附しており、田公実の絵を寄附したとしても不思議なことではありません。

※現在奥殿では、龍図、滝図、柳鷹図、松・尾長図を展示中。年内に、二度展示替予定です。

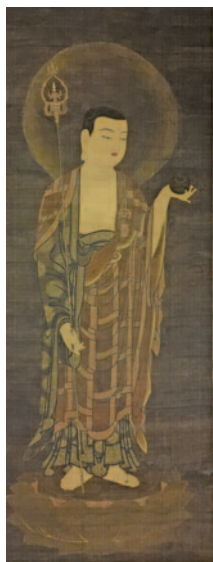
(未完、次号に続く)
(藤井和夫記)



明治二十年什器帳



星曼荼羅・地藏菩薩像記載部分



地藏菩薩像 室町時代



田公実筆 地藏菩薩像



星曼荼羅

高幡いきもの晏茶羅 ③②

さてお寺でまず思い浮かぶ「いきもの」といえば「木魚」です。物理的には打楽器ですが、魚は目を閉じて眠らないとされたことにより、仏具として魚のフォルムをまとう事になりました。また一対で向かい合う「狛犬」はかつて大陸伝来の魔除けの唐獅子が日本に定着した姿でもあります。

そしてお寺に欠かせないいきもの「龍」、とりわけ高幡不動尊大日堂の「鳴り龍」天井は音の共鳴と天井に描かれた「龍」の姿が昇華して、手を叩くことで別次元の宗教的生命体験を得ることが出来るのです。龍とは蛇神のAvatarであり天の気を司るメッセンジャーでもあるのです。

さて「鳴り龍」が形而上の龍とすれば、形而下の龍はドラゴン、つまり蜥蜴です。高幡不動尊にもニホントカゲが生息しています。ニホントカゲの幼体は尻尾がメタリックブルーに輝きとても綺麗でただならぬ雰囲気を感じます。そしてもうひとつの龍はトンボ（ドラゴンフライ）です。トンボは前にしか飛ばないゆえに縁起の良い虫とされます。境内でもオニヤンマやハグロトンボの繁殖が確認さ

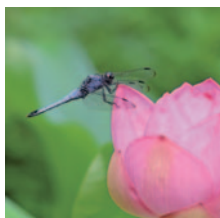
なにげなくつかっている仏教のことは―割愛（かつあい）

「内容を割愛させていたいただきます」のように、その詳細や全体の一部を省く場合に「割愛」という言葉を使います。

しかし「割愛」にはより深い意味があります。『正法念處經』に「智は則ち能く愛を

れています。

このように非日常であるお寺のお堂の中の「いきもの」と、境内に生息する実際のいきものを無意識に行き来する私達は、幸運にも「祈り」や「願い」を「いきもの」たちに託すことが出来るのです。例えば偶然ハスの花にとまるトンボを目にした時、このろの中でそつと手を合わせてみたくなるのではないのでしょうか。



ハスの花とシオカラトンボ



木 魚



ニホントカゲ



鳴り龍

割く、此れを大衆の道と為す」と説かれているように、

仏教では「割愛」とは人や物に対する愛着や執着を断ち切ることに、すなわち煩惱を断ずることを意味します。

惜しいと思いつながら手放

す、その心の葛藤が「割愛」には込められているようです。

現代では単なる省略の意味で使われがちですが、「惜しみつつもあえて断つ」という本来の意味にも、ぜひ目を向けていただきたいものです。

(小林靖典)

お不動さま教えて？

ご質問 お不動さまのお護摩の法要では、どのようなお経が唱えられているのか、また、その意味内容はどのようなものなのでしょうか。どうかお不動さま教えてください。

(前号のつづき)

お答え はい、お答えします。

前号では《諸祈願》《大金剛輪陀羅尼》《一字金輪真言》の内容についてお話しをしました。つぎに唱えられるのは《三帰礼文》です。といつても、高幡のお不動さまでは、単に座って唱えるのではなく、三度、五体投地（両膝・両肘・頭を地につけて、本尊の足下を礼拝すること）をしながら唱えます。

《三帰礼文》とは、仏宝（仏さま）と法宝（仏さまの教え）と僧宝（信仰を同じくする仲間）の三宝に帰依し、敬うことばのことです。

そのことばは、「ここから仏さまに帰依し、みなと共に仏さまに至る道を歩み、さとりが得られま

の教えを学び、仏さまの智慧が得られますように。仏さまを信仰する仲間に帰依し、人々を導き、仏さまの境地と一体となりますように」という意味のものです。

ここで簡潔に、法要の全体を振り返っておくことにしましょう。

法要ではまず、迷いを断ち仏道へ導く《錫杖經》、続いて不動明王への願いを込めた《祈願文》が高らかに読み上げられ、その後、すべての存在が清浄であり仏と平等一体であることを説く《理趣經》の百字の偈や、衆生を救済する観音菩薩の誓いを説く《觀音經》の偈、《般若心經》の功德によってさとりに導かれ、「お不動さまの真言」では護摩の炎が最高潮に達し、お護摩札が加持されます。そして《諸祈願》では、参列者の願いごとが祈念され、「大金剛輪陀羅尼」と《一字金輪真言》をもって法要の成就を願い、最後に、仏法僧の三宝に帰依を誓って、お護摩の法要が締めくくられます。

(おわり)

御護摩料改定のお知らせ

当山では世界平和・御信徒安全をはじめ、御本尊不動明王様に皆様方の諸願成就の御護摩を毎日ご修行しております。

令和七年十月一日より、御護摩料を改定致しますので、御信徒の皆様にお知らせ致します。



大護摩札
(約58cm)

30,000円以上



中護摩札
(約52cm)

(改定前) 10,000円

↓

(改定後) 15,000円



御護摩札
(約45cm)

(改定前) 5,000円

↓

(改定後) 7,000円



御護摩札
(約37cm)

(改定前) 3,000円

↓

(改定後) 5,000円



懷中札
(約11cm)

(改定前) 3,000円

↓

(改定後) 5,000円



交通安全札
(約15.5cm)

(改定前) 3,000円

↓

(改定後) 5,000円

当山では御護摩札の郵送による授与も行なっています。

郵送をご希望の方は、必要事項

(お名前、お願い事、生まれ年、郵送先住所、お電話番号等)をご記入のうえ、郵便(葉書、封書)またはFAXにてお申し込み下さい。御札が届きましたら、同封の払込用紙にてご送金下さい。

御◆案◆内

交通安全祈願

午前九時～午後四時半
午後四時半までにお申込下さい。

御護摩修行

○平日 八時・十時・

十一時半・一時・三時

○土曜・日曜・祝日

八時・十時・十一時半・

一時・二時半・四時

○但し一日、十五日の午前中は

五時・十時・十一時半

○ご縁日(二十八日)

五時・九時・十時・十一時・

十二時・一時・二時半・四時

○御護摩料 本年十月一日

より改訂致します。詳しく

は上記の改訂表をご覧ください。

ご縁日 毎月二十八日

境内に市が立ち参道は歩行者天国になります。

フリーマーケット(リサイクル市)

毎月第二日曜日(雨天中止)

ござれ市(がらくた市)

毎月第三日曜日(雨天決行)

お焚き上げ

毎月十五日午前九時

月例写経会

毎月二十一日午後一時半

千体地藏尊月例法要

毎月二十四日午後二時

奥殿拝観(月曜休館)

午前九時～午後四時

拝観料 五〇〇円

大日堂 鳴り龍・襖絵拝観

午前九時～午後四時

参拝料 三〇〇円

(月曜休館)

尚法要中は拝観一時休止になりますのでご諒承下さい。

編集室だより

既報(131号)の客殿工事が始まり連日重機の音が聞こえ、長年見続けた景色が変化していくのを見ると感慨深いものがあります。令和九年(二〇二七年)三月完成、檀信徒の皆様には絶大なるご信援ご協力をお願い申し上げます。

今夏は全国各地で40℃を超え、730兵庫県丹波市で41.2℃を観測、境内のあじさいも降雨がないためか落葉が早かったようでした。

今号はあじさいまつりのご報告と秋の行事案内等掲載いたしました。

日照時間が少しづつ短くなり暑さが一段落する頃ですが気候の変わり目ご自愛ください。

発行所

〒191-0031 東京都日野市高幡733

別格本山

高幡山金剛寺

電話 (042) 591-0032(代)

FAX (042) 593-3038

発行人 黒川 高徳

編集人

年4回発行・再生紙使用